



留学だより No.3

だいぶ遅れてしまいましたが、明けましておめでとうございます！今年もよろしく願いします。毎年当たり前のように食べていたおせちとお雑煮が今年は食べられなかったのが恋しいです。

今回は、フランスで一年のうちの一番大きなイベントであるクリスマス特集を2回に分けて書きたいと思います。因みに、クリスマスはフランス語で「Noël（ノエル）」と言います。「ブッシュ・ド・ノエル（クリスマスに食べるフランスのケーキ）」のノエルです。聞いたことがある人は多いと思いますが、実はフランス語でした。

それでは、早速順番に紹介していきます。

準備が肝心

フランスのクリスマスは、日本のお正月みたいに家族・親戚で集まる貴重な機会です。そのため、準備を一生懸命します。特に、料理を何にするか決めるのにホストマザーやホストグランマがとても悩んでいました。何と、一か月以上前の11月から何にしようか考え始めていました。そして、何回も試作していました。フランスには、日本のお正月のように決まった料理がないので、毎年、とても悩むそうです。

また料理だけではなく、家中のデコレーション、プレゼント、当日のテーブルでの席の配置、みんなで楽しめるアクティビティ、などなど本当にいろいろなことを考えていました。結果がどうなったかは、次の項目に書きます。

その前に一つ、一番驚いたことを紹介させてください。

クリスマスツリー

先程、家のデコレーションについて少し触れましたが、私が特に圧倒されたのがクリスマスツリーです。日本では、繰り返し使えるプラスチックのクリスマスツリーに飾りつけをするのが一般的ですが、フランスでは季節になるとスーパーマーケットに本物の2mくらいのモミの木が大量に売っていて、それを毎年買うのが一般的です。これは知っていたので、きっとそうするのだろうと想像していたら、12月初旬のある日、ホストファミリーが山の

中、5m以上するモミの木の前で「うーん、ここら辺を伐れば家の中に入るかな。よし、伐るぞ」と言って本当にやったので、すごく衝撃を受けました。伐ったのは、この木です。この家族がやることは全部ダイナミックですごいなと思いました。「本物の木を自分で伐り



に行く人はフランスでも珍しいんだよ」と誇らしげに語っていました。ただ、森の中の木を勝手に伐って持って帰るのは日本では違法なので、真似しようがないと思いますが、一応、真似しないようにしてください。ホストファミリーは私有地のモミの木を料金を支払って許可をもらって伐っていました。



次に、家に入れるために4m弱までに伐り、上の写真のように車まで運び、持って帰り、乾かし、やっと家に入れて、飾りつけをしました。ツリーがとても高いので、飾りつけも大変でした。二階を使ったりはしごを使ったりしました。

完成したツリーがこちら↓↓



飾りつけがすごくきれいで、こんな高い木が家の中であって、それを自分で伐りに行ったなんて、とスケールの大きさに感動しました。

因みに、ツリーの下にあるのは「crèche（クレッシュ）」というもので、キリスト生誕の瞬間を再現しています。

では、当日起きたこと、やったことを紹介します。

12月24日

朝、起きてドアを開けると、前夜ドアノブに掛けておいた靴下にパンパンにプレゼントが入っていました。びっくりしました。

靴下を持って居間に行くと、クリスマスツリーの下にあり得ないくらいの量のプレゼントが置いてありました。

その写真です↓↓



また感動しました。合わせて一人 20 個くらいプレゼントがあったと思います。今までこんなにも多くのプレゼントをもらったことはなかったです。チョコ、フランス語のことわざゲーム、石鹸、ハンドクリーム、洋服、楽譜など嬉しいものが本当にたくさん入っていました。ホストファミリーに感謝です。

夜は、ホストマザー側の親戚が合わせて 10 人ほど家に来ました。みんな集まると、アペリティフ（食事前にソファでゆったりとお酒を飲んでつまみを食べる時間）になり、1 時間くらいずっと喋っていました。自分の人生活から世間話まで、たくさんのお話を話していました。フランス人は本当に喋るのが大好きで、会話をすごく大切にしています。

その後はテーブルに移動し、みんなつまみを食べすぎたせいでお腹がすいていなかったのですが、子羊のスパークリング煮、チーズ、デザートを食べました。デザートはブッシュ・ド・ノエル（下の写真）でした。食べ終わった後も、みんな夜中の一時間くらいまでずっと喋っていました。



留学だより No. 4 に続く。